題目を決定してから次に來るべき必要事項は即ち材料の蒐集と云ふ事である。此仕事の準備として研究家に屢々一つの善い考へを與へる所のものは即ち討論せんとする問題に就て彼の知つてをる所、知らない所を正確に確かめると云ふ一事である。其最も善い方法としては其問題に就て知つてをる範圍だけを綱領として書く事である。然る時は幾多の疑問は自から現はれて來て從て攻究の道が勢ひ渉るやうになり研究家は述作をする前に確然たる考へを持つやうになるものである之れには讀書が資料の最も必要なる源泉たるものである。吾人は演說をやる前に先づ形式内容の兩方面に留意して讀書をする事が必要である。此他の思想の研究は賢明なる獨立の精神を以てして始めて成立するもので、然らざる時には折角骨折つて拾集した材料は單に編纂の用に投ぜられてしまつたと云ふに過ぎない事となる。茲に讀書の演說家に對する眞價を知らんとするならば即ち本質と偶然の出來事とを辯別し最上の文學の特性を表はす所の暗示と合意とを評價し得る演說家

の才能に依て判斷するのである。

次に重要なるは演題の撰擇の原則である。當事者は如何なる題目が自己の目的に適合してをるか、其適合してをるものは之を選び、一方如何なる題が利用を生じないものであるか其利用の生じない題目は之を排棄するやうにしなければならぬ。演說に於て特殊の問題を攻究せんとする時には、當事者は充分、忠實の心を以て好く眞理の趣味をして兎角空想に陷入り易いやうな文學思想に左右せしめられないやうに注意する事が肝要である。何事に依らず論題を發達せしめる上に於て直接に助けとならぬものは用捨なく之を放擲してしまはなければならぬ。讀書する時には當事者は常に演說家になつてをるやうな心持で聽衆に演說をして聽かせてをると云ふ態度を忘れてはならぬ。當事者は單に他の者の思想を繰り返すに過ぎない所の編纂者の心持になつて居つてはいけないと云ふ事は最も大切な事である。即ち當事者は自己の特性に從ひ自己の充實せる智能に依て眞理を表示する

創作者と云ふ心持で居らなければならぬ。創作的讀書と云ふのは當事者が讀書中に直ちに其書物の中の內容を了解するやうになり之を再三、改作し改撰して一つの新たなる作物として目的に適合するやうに應用する事が出來る讀書の仕方を云ふのである。即ち當事者の其著者の創作の路筋に從ふと同時に自己の創作力にも倣ひ若し著者の說に良い所があるならば之を採用し自己の思念考慮する所と交々酖酌して熱心に本題に取り懸る事が必要である。

此の豫備的讀書と云ふものが充分なる効果を生ずるものであれば所謂熟考すると云ふ要件は輕視する事が出來ぬのである。世間で能く云ふ所の演說を見るに多くは他の人々の思想を未だ編纂し終らざるものと見て大差ないもので、其著者の部分に於て多少熟考の足りない點のあるを免れない所がある。此創作の上に就ての熟考は或る特殊の目的の爲めに材料を編成しようとする自覺があつて始めて生じて來るものである。其れには部分部分の關係を見て誤解を生じないと云ふやう

な言葉の中に他の人の思想を取ると云ふ習慣は善い方法である。此分解的方面は努めて研究するやうに心掛くる事が肝要である。此習慣が一度成り立つ曉には如何なる事實でも、又叙述でも自から一般の眞理に歸し得るやうに出來て來るであらう。此分解の心掛ある讀者は何事も獨立のものとして觀察せず自から精密に同等從屬した原則を適用するものである。玆に一つの提案がある夫れは研究家が『カルタ』制度の方法に依て記號を取ることで即ち數多の別々な『カルタ』の上にそれ〴〵疑問の別々な形を分けて材料を置くと云ふ方法であるが之れは誠に都合の好い便利な方法である上に平等の原則に從て材料を整理すると云ふ順序正しい習慣を養ふに力あるものである。

形式上の分類

吾人は先に演說家は聽衆の先入する心的狀態に適合するように演說す可しと云

ふ適合の法則を學んだ。其第一は即ち前置きと云ふ手段に依て聽衆と親密な關係を結ぶと云ふ事、第二は討論と云ふ形で其傳達を實行するに必要なるものは總て之を表示する事、第三には結論と云ふ形で、述べ來つた所のものを約説し其是非を世論などに訴へると云ふ事が要件である。以下順次に此三者に就て説明して見よう。

前置の詞

諺に『始めが好く出來て居れば殆んど其半分も出來上つてをるものと云つて宜い』と云ふ事があるが、是れは能く此前置の意を説明してをるものである。前置の目的は即ち題意に入るに先立つて先づ演者と聽者との間に互に思ひ遣ると云ふ一つの固い『クサビ』を作ると云ふ事である。此外前置は演説を公平に聽かんとするに對し萬一妨げんとするが如き偏見あるを除去せんと圖り、又は一般の場合に

於て其目的を表示せんとし、或る場合に於ては其提案の論議の綱領を與へんとするものである。今若しも聽衆が演説者と好く意思が通じて題意に對して聊かの偏見も挾んで居らない場合には形式上の前置などは殆んど必要がないもので總ての場合を通じて頗る簡單に濟むものと云つても差し支へない。專門校などでは、演説上入念に形式上の前置をするなどのことは殆んど其の要のないものである。

× × × × × ×

有名なる『ウイリヤム・エッチ・セワード』に依て與へられたる最も好い例は增加する數と云ふ意味の中に存するのであるが今日では無用な前置などの方法で時間を費すなどと云ふ事はしないのである。

茲に一言し度いのは聽衆の心的狀態が殆ど平等無差別である場合の方が、眞の敵意が漸次勢を得て來る場合よりも、其支障の度合が一入甚だしいことがあると云ふ一事である。時として吾人は或る逸話を聽いて興味を喚起される事がある。

或は其他の方法に依て好奇心を刺戟して興趣を起す事も有る。又此興味は論題が聽衆の一身上の幸福に重大な關係あることを知る場合に特に由て來るものであるが、又討論に依て正しく問題を解決する事が直接聽衆の利益となる事を證明する場合にも興味は湧いて來るものである。或る熱心なる演說者は自己の其存在に依て屢々相手の無差別的惰性に打ち勝たんとするもので、此熱心と云ふものには毎も其前に傳染性の分子が存在して居るやうに思はれる。是れと相對して最も無能な聽衆は、一大演說の爲めに殆んど自己を忘れると云ふやうな熱心な才智ある演說家の前には當然一も二もなく呑まれてしまうものである。

自己自身にも、又自己が表示する事項にも敵意を有つた聽衆に面接する如き場合にも演說者は其の無差別な聽衆に對して或る便宜を得るものである。斯樣な場合には同情心のある聽衆が無くつても一致の羈絆を造り上げる普通一般の感情に訴へて屢々尊敬を得易いものである。

演說家の落付いた威嚴ある態度は一般に聽衆の友誼を得るものであつて正義とか公平とか通常の意識に是非を訴ふると云ふ事は殆んど効果のないものである。而して聽衆の方に起る所の敵意は一般に或る誤解より生じて來るものであるから此誤解を除くと云ふ事は取りもなほさず敵意を取り除くと云ふ事になるのである是れは實に各人が怨恨から起す所の熱烈な心理と相提携するもので注意深く判斷を要すべきである。此威嚴と勇氣とが敵意ある聽衆を說服する眞價は實に彼の『ヘンリー●エドワード●ビーチャー』の『リバープール』演說に引證されたものに就て知る事が出來る。ビーチャーは幾多の威嚇攻擊があつたにも不拘遂に聽衆をば三時間も傾聽せしむるやうにした人である。此ビーチャーの爲した演說の後半には時々多少の邪魔が入つたことは免かれなかつたが、大體に於ては謹聽稱賛の聲で滿ちて居つたのである。實に彼は男らしい威嚴と、其目的遂行の爲めに獻身的なる性來の勇氣とに依て烏合の衆をば克く傾聽せしむる事が出來た。其演說は英

國民の態度をして奴隷と分離問題の側に一變せしむるに有力なる素因を成したものである。

西暦一八五六年『ウエスレヤン』大學の文學會で『ジョージ、ウイリヤム、カーテイス』が演じた『米國學生の義務』と云ふ演說中にも吾人は模範的前置を見る事が出來る。是れは同情心ある聽衆に話されたもので其論題は時機に投じて表示されたものであつたので、其の簡潔にして威嚴ある前置は、此好模範たる時事演說術の特質を表彰するものとも云ふべく充分注意して讀む價値あるものである。

討論

凡そ形式上の前置を要する所の演說では前置は如何なる點で終て討論は如何なる點で始まるのであるかと云ふことは隨分困難なものである。吾人は經驗を積んだ演說家が如何なる時に聽衆を說服する事が出來るかと云ふ事を直解的に知り得

るを毫も疑はぬ。實に此を以て演說の生命ともすべき條件たる莊嚴靜肅が得られるのである實際討論は『自己の目的に對つて前進的たれ直進的たれ』と演說家に吹聲する其眞理を聽衆が充分聽取し得るやうな心持になつた際に於て始めて起るものである。

此討論の問題は一つの主義を中心として事實や議論が入り組んで居るものであるから演說者は宜しく辯論し相反する所の各個の議論と相對して自己の主張を吟味し、若し偏頗虛僞の論が有つたならば之を排斥し或は處分して之に代ふるに眞理の確固たる基礎を建設しなければならぬのである。是れに次で吾人は順序正しき論理的筆法に於て論題の進捗を望む上から論法の立て方を知らなければならぬと云ふ必要を感ずるのである。即ち吾人は此處に他の如何なる方法よりも有効で一般的に完全な學生の如き研究家に滿足を與へる唯一最上の演說方法のあることを知るのである。凡そ演說は論理及び修辭の法則により自覺力ある觀察あつて始

めて進歩して行くものである。然しながら技術的演説（普通一般の演説なるものは技術上の仕事であるが）は別に技術家の自覺を有つた努力は表示しないものである。

演説の主義が組織立つて居り且つ思想の中心たるものは常に確實なる提案となるものである。此提案は一般に問題を解決する所の總合法の叙述である。上院議員の一人である『アルバート・ジエー・ビベリッヂ』は最近の政治的演説に於て共和政主義即ち『保守黨進歩の精神』と云ふ演題の下に協力は進歩の道を開くのであると云ふ事を論據として、米國々民は保守黨の進歩と、反動の爲めに無になるやうな極端に失した急激なる進歩主義と孰れの一つを選ぶかと云ふ所の提案を討議したのである。彼は此問題を通常二個の題目に分つて討論した。即ち第一に保守主義と、企業家合同問題に於て示された通りの進歩主義との間の牴觸を考へたのである。彼は企業家合同を以て惡弊あるものとなさずして之をば協力の法則の直接な

るものとして論法に適つた健全なる産物であると見做し此問題に『保守的進歩の方法』を適用せんとした、換言すれば即ち企業家合同の組織を破壞してしまふやうな惡弊の起らぬやうに合同の善良な結果を保護して行く國家監督機關たる政策を適用するのである。次に其第二の細別は領土擴張の政策である。而して彼は此政策が、先に説明した進歩の方法と調和して居ると云ふ理由の下に此政策の正しい事を證明しようとしたものである。細別の項目の數多ある中で此二つの分類は實に上院議員の『ビベリッヂ』が、反動の政策よりも寧ろ進歩の政策と呼んだ其の理由から發したものである。

最も有力なる演説家の制度に倣つて劃策するものとして此組織が要求する所は即ち討論は寛大なるよりも寧ろ强制的たるべしと云ふ事である。又議論に何となく勢があるとか力が籠て居ると云ふ事は、多くの議論を演つた結果ではなくつて寧ろ演つた議論の度數は少なくても、完全に熱心に演つた結果であると云ふ方が

至當で、事實と議論とは一般の原則に從て結び付いて行かねばならぬものである討論に於ても唯續々數多き細別に渉つて居るものは餘り正當と見る可きものがない。細別は出來る丈け少なきを要とする、强制的方法には二重の利益がある、即ち簡潔にして議論に力が籠る事と解釋者に餘り骨を折らせぬ事とである。

結論

結論の目的には二つある。即ち議論中の顯著なる要點を摘錄する事と直接感情に訴へて行爲に表はす迄に刺戟を與へる事とである。演說者は聽衆に自己の感情と思想とを通じて置いてから後に聽衆をば自己の思想の自由になるやうにせねばならぬ。斯くの如くにして始めて思ふが儘に聽衆を感動せしめ意識せしめる事が出來るのである。又演說家は聽衆を信服せしめて其心氣を奪つてしまはない中は決して聽衆の心と離畔しないやうにしなければならぬのである。

例を聽衆に取りて結んだ演說の結尾は主題から來る所の自然の產物であつて實行す可き眞理は威嚴ある思想と、而して强烈なる感情に適應する言葉で再三述べることが必要である。結論は、前に屢々述べた通りに、簡潔にして而も明瞭なる事を要する。即ち簡潔で而かも何處となく力と激情とが旺溢して居る所がなくてはならない。

約說せば、世論に是非を訴ふる事は共に演說を決定す可きものであるが唯徒に目的なくして反覆すると云ふ事は何の得る所もないものである。世間では折角克く演つた所の演說を駄辯を後に附け加へた爲めに打ち壞してしまふ演說家が多い「ダニエル・ウエブスター」の演說に一種の魔力あると云ふ一つの機密は實に次のやうな事實である。即ち彼れ「ウエブスター」氏は討論を行つてしまつてから例を聽衆に取つて演說の結尾を得ると云ふ結論の方法に依て自己の自信を强め斯くして自己の威嚴ある存在に依て演說に聽き惚れしめる精神の氣合を聽衆の心に注入

れたのである。『ウエブスター』氏の方法の特質を表はす斯樣な結論並に聽衆を說服し信服せしむる所の雄辯の模範は『ワシントンに冠せる贊詞』と題する演說中に見る事が出來る。

演說法講話附錄 終

大正六年九月二十五日印刷
大正六年十九月三十日發行

演說法講話奧附

定價金六十五錢

東京府豐多摩郡代々幡村代々木一〇八番地
著者 加藤熊一郎

東京市神田區三河町一丁目五番地
發行者 水野治助

東京市神田區豐島町三十四番地
印刷者 金山佐次

東京市神田區豐島町三十四番地
印刷所 博眞堂

不許複製

發行所 東京市神田區三河町一丁目五番地 水野書店 電話神田一八〇八番 振替東京三三四二番

大販賣店 東京市神田區錦町一丁目拾九番地 慶文堂書店 電話本局四七九二番 振替東京二八五三三

363
273

終